

氏 名 中川 友里

学 位 の 種 類 修士（看護学）

学 位 記 番 号 修士第234号

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第3条第1項

学 位 授 与 年 月 日 平成30年 9月20日

学 位 論 文 題 目 滋賀医科大学医学部附属病院一般病棟において
緩和ケアとして実施されたアロママッサージ受療者の実際

審 査 委 員 主査 教授 河 村 奈美子

副査 教授 遠 藤 善 裕

副査 准教授 中 西 京 子

論文内容要旨

※整理番号	239	(ふりがな) 氏 名	中川 友里
修士論文題目	滋賀医科大学医学部附属病院一般病棟において緩和ケアとして実施されたアロママッサージ受療者の実際		
<p>目的：本研究は看護師によるアロママッサージを受けた一般病棟入院中のがん患者の実際を明らかにすることを目的とする。</p> <p>方法：滋賀医科大学医学部附属病院一般病棟においてアロママッサージを緩和ケアとして受療したがん患者を対象に、半構成的面接法によるインタビューを実施し、得られたデータは質的記述的分析方法を用いて分析した。</p> <p>結果：研究協力者 7 名全員にデータを得た。（年齢は平均 51.7 歳（22～69 歳）、男性 3 名・女性 4 名）。データ分析の結果、259 コード、48 のサブカテゴリー、9 のカテゴリーが抽出された。抽出されたコードは、【緊張感と自責の念にとらわれる入院生活】【入院中には耐えがたい苦痛と孤独に苦悩】【無知と誤解からアロマセラピーを受けることを躊躇】【病院で受けられるアロママッサージが快適】【病状を把握している看護師によるアロママッサージを信頼】【アロマセラピーは芳香で安らかさを付与】【アロママッサージによる緊張緩和で他のケアも充足】【緩和ケアとともに落ちつきを取り戻して生活】【入院中のアロママッサージは心の平穏の手段】である。</p> <p>考察：一般病棟において緩和ケアとして実施されたアロママッサージ受療者は、緩和ケアを受けながらも、【緊張感と自責の念にとらわれる入院生活】を送り、【入院中には耐えがたい苦痛と孤独に苦悩】を抱えていた。アロママッサージを受療するまでの患者は、【無知と誤解からアロマセラピーを受けることを躊躇】していたが、正しい知識と適切な配慮のある、個人に適したアロママッサージを受療したことで、【アロマセラピーは芳香で安らかさを付与】し、患者は【病院で受けられるアロママッサージが快適】であることを実感していた。積極的治療を受けながら緩和ケアを受療している患者は、【病状を把握している看護師によるアロママッサージを信頼】していた。患者は【アロママッサージによる緊張緩和で他のケアも充足】し、【緩和ケアとともに落ちつきを取り戻して生活】することの一助となっていると実感していた。そして、【入院中のアロママッサージは心の平穏の手段】という緩和ケアとしてアロママッサージを受ける意義を見出していた。</p> <p>総括：本研究では、滋賀医科大学医学部附属病院の一般病棟で緩和ケアとしてアロママッサージを受療した患者の実際を明らかにした。アロママッサージには、安寧を保つことや、手当がもたらす患者と看護師の相互作用、信頼関係の構築など看護と共通する部分がある。患者はアロママッサージを看護ケアの一つとして、緩和ケアの包括的なアプローチとして求めている。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。（1, 200 字程度）
 2. ※印の欄には記入しないこと。